（大正十四年十二月一日）（第三種郵便物認可）　昭和九年三月十五日　平新報　第百八十三號【一】

平新報

發行日　毎月三回　五ノ日發行
編輯兼發行印刷人　山野邊庄吉
福島縣平町壹丁目六
發行所　平新報社
廣告料　五號十二字詰一行　一回五十錢　場所指定倍增
一部　定價金拾錢　五厘
途料

磐中第三十四回卒業式

磐中第三十四回二百拾六名の卒業式は去る七日午前拾時より大略左の如く同校講堂に於て擧行された

◇國歌合唱◇敎育勅語捧讀◇卒業證書授與◇敎練合格證書授與（大井川中佐）◇賞狀及ビ賞品授與◇小檜山校長訓辭（別項記載）◇知事告辭（今井社會課長代讀）◇祝辭（寫眞は小檜山久作氏）

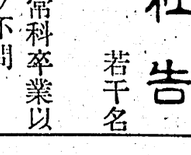
校長訓辭大要

左は七日磐中卒業式に於て大抵でない若勞をかけたのであるから、恥かしいなどいふて居られない、必ず厚く感謝の誠を表はさねばなりませんそうしてそれを佛壇なり神棚に捧げて人間としての四大恩を感謝せねばなりません、私と致しましては特に諸子の卒業は印は其光榮を語り合ふことゝなるでせう。

今諸子が卒業するに當つて言ふべき事は澤山にありますが過去一ケ年間、國民としての心得、社會生活に對する態度、人の子としての務め等數十回に亘つて述べ盡きましたので今改めて申しません、僅かに二ケ年一人一人尊い躰である大いに自重せねばならぬ。

今後は世の中に立つていろ〳〵の困難に遭遇する事であらう、よく身躰を大切にして、強い意志の力を以て努力勤行將來の大を祈つて之を以て御別れの言葉と致します。（在文責記者）

同窓會長の祝辭



母校第三十四回卒業式ヲ擧ケ本校第三十六名ニ卒業証書ヲ授與セラル洵ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ諸子中等敎育ノ課程ヲ修了シ各志ス所ニ向ツテ邁進セントスソノ意氣ト体力トハ何物ヲモ壓セント欲スルノ慨アリト雖モ尙一段ノ研鑽修養ニツトメ人格能クコノ難局ヲ打開シ明治以來ノ進歩興隆ノ緒ヲ紹キ昭和聖代ヲ大成スベキノ責任重且ツ大ナリ諸子ハ在學五ケ年間克ク校訓ヲ遵擧シ校友相ヒ切磋琢磨シ互ニ身心ノ鍛錬修養ニ勉メ特ニ校風ノ刷新ニ努力シ篤ヲ後生ニ垂レタルハ上ニ陷リ今日ノ名譽ヲ失墜シ累ヲ父母兄弟ニ及スガ如キ一ケ年を回顧して實に感慨無量であらうと思ふ、敎練の厚く感謝の誠を表はさねばなりませんそうしてそれを佛壇なり神棚に捧げて人間としての四大恩を感謝せねばなりません、私と致しましては特に諸子の卒業は印は其光榮を語り合ふことゝなるでせう。

今諸子が卒業するに當つて言ふべき事は澤山にありますが過去一ケ年間、國民としての心得、社會生活に對する態度、人の子としての務め等數十回に亘つて述べ盡きましたので今改めて申しません、僅かに二ケ年一人一人尊い躰である大いに自重せねばならぬ。

今後は世の中に立つていろ〳〵の困難に遭遇する事であらう、よく身躰を大切にして、強い意志の力を以て努力勤行將來の大を祈つて之を以て御別れの言葉と致します。（在文責記者）

知人消息

大井川八郎氏、磐中配屬將校少佐の氏は今回中佐に榮進

本多乙彦氏、二十九聯隊附であつた少佐の氏は今回縣聯隊司令部員と安積中學校配屬

白鳥君

鐵道大臣官房人り

話の目

今回の磐中卒業式に列して感じた事は講堂に生徒一同の安座である、板の間であるから、その間の思ひ遣りがある。次は校歌合唱である、又賞狀授與に際して「同窓會の寄贈に係はる置時計云々」の字句を入れた事は、事微少に關する事だが、小檜山校長の心附きが現はれて居る事だ、尙ほ前衆議木村清治氏の祝辭中、左、右系思想問題に關して強張した事は父兄の何人も配慮する點である。

益々自分を磨かなくてはならない、在學年中の成績が惡い者でも決して失望して事になつたと父、惣治氏の歌合唱である、又賞狀授與に際して「同窓會の寄贈に係はる置時計云々」の字句を入れた事は、事微少に關する事だが、小檜山校長の心附きが現はれて居る事だ、尙ほ前衆議木村清治氏の祝辭中、左、右系思想問題に關して強張した事は父兄の何人も配慮する點である。

君は仙臺高工を修了鐵道大臣官房研究所へ入所する事になつたと父、惣治氏のすが過去一ケ年間、國民としての心得、社會生活に對する態度、人の子としての務め等數十回に亘つて述べ盡きましたので今改めて申しません、僅かに二ケ年一人一人尊い躰である大いに自重せねばならぬ。

今後は世の中に立つていろ〳〵の困難に遭遇する事であらう、よく身躰を大切にして、強い意志の力を以て努力勤行將來の大を祈つて之を以て御別れの言葉と致します。（在文責記者）

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二町目（電話局三番）

吸入用酸素
純度99%

體温器
寒暖計
モノサシ
マス
ハカリ
度量衡器

開業醫
內科、小兒科、
診察室
平町紺屋町
電話五〇七番

◇社告
營業部員　若干名
右募集ス
學業尋常科卒業以上年齡ヲ不問
委細面談
平新報社

平町田町　電話五一三番
高久病院

◎非常時日本と婦人の職業
近代の日本は婦人にも經濟の獨立を呼かけて參りました、婦人の職業として産婆看護婦といふ業は最も似つかはしい天職であります
◎卒業年限僅か一ケ年
開業すれば收益も多大で家政の內助ともなり、家庭の人となつても直接役に立つのは此の産婆看護婦の業であります
◎戰爭と日本婦人としての覺悟
一旦緩急あれば戰時看護婦として愛する母國への奉仕に務めませう
◎古い傳統の歷史と縣下第一の好成績を誇る平町一丁目の石城産科婦看護婦學校へ御入學下さい

生徒募集
石城産科婦看護婦學校
電話三五七番
校長　鷹崎千代

磐城文政上の偉人平藩儒『櫻關室直養傳』出版近し！

其刊行會の非常時風教事業と義損金募集

（締切三月末日限）

本紙の前號及び都鄙の各新聞上で先月下旬既報した通り、平藩の大儒たりし宰櫻關先生の傳記は目下、東京斯る時に於いてか本會は最に於いて其の會が鋭意印刷中であるから、陽春四月上旬までは完成し、頒布を見られるとと。

時しも國家は非常時に際して世人の思想は倍々惡化しに就き、吾人は常に崇敬を當さに憂慨の士は咏歎して吾人の赤誠を希求する秋、各地には南朝忠臣六百年忌の追旌祭を盛行し、或は勤王、志士、儒者等の顯彰運に瀕せる現代風教に對する末日限りとあるが今月末日た爲に、信勇は之が責で朝である。然るに今や之に義捐を蒙り、遂に櫻關先生の本會は目下の經濟的受難を損を承諾して、申込む諸氏至誠は遺憾ながら達せられ早數百人に及んだと云ふ。

櫻關先生は安藤家四代の侍講となりし程の人物で、從つて識見卓拔にして、意氣亦俊邁、愈儒の到底之に比すべからずであつた。後ち磐城七藩の最高學府たる佑賢堂を中興して自ら學頭と

櫻關室直養傳出版豫約

本會代表者刊行委員長　青沼鋒太郎
編纂所　同縣同町五町目六番地三猿文庫內
（電話九番九九番）

（義損申込所）
福島縣平町舊城跡十二番地（電話四〇三番）

縣下中等校野球大會

本年は平町開催

今よりそが盛況刮目さる

本縣下中等學校體育大會野球部は本年平に於て開催さる事になり、期日は七月二十三日より三日間、場所は磐中と湯本、內郷、好間の三ヶ所から二ヶ所撰定され郡合三ヶ所にて行はるべく、參加校十八、その盛況を今より刮目されて居る。

福島縣下に冠たる石城郡蠶業技術員恊會

總集會開催、會長以下役員改選さる

三月三日午前十一時より、總會を平町平陽女學校樓上に開催百餘名參集したが平

會長佐久間傳（平）　副會長兼本三男也（上小川）　幹事一昭和九年度收支豫算　石木田藤次郎（平）　志賀傳造城郡蠶業技術員協會々則制（錦）　佐藤智行（澤渡）　合定協議決定の後ち、役員の津秀二（永戸）　上遠野俊夫改選を行ひ左記の通り選擧（上遠野）　常任幹事松崎重（任期三年）午後四時盛況裡雄（取締所）　縣代議員廣井に散會、甲陽館に於て懇親將之（內郷）　顧問目黑誠之會を催した。　酒井猶次　山本薫

非常時局に直面して蠶業技術員懇談會

蠶業取締所平支所主催

福島縣蠶業取締所平支所で一繭檢定に關する件、一蠶蛆驅除に關する件

拜啓春寒料峭之候彌々御淸榮之段奉賀候

陳者小生儀先般歸省の際は多大の御懇情を辱ふし剩へ舊年末年始御繁忙の折にも不拘鄭重なる御招待に迄預り御厚志の程難有御禮申上候　御蔭樣にて途中無恙歸哈仕候間乍餘事御安心被下度候　先は不取敢御禮旁々御通知迄如斯御座候　敬具

康德元年三月一日

ハルピン市モストワヤ街十一號　新妻喜男

（新妻藥局）

音信交換

生徒募集

◎本科　一年　◎裁縫專修科　一年
◎專攻科　◎師範科
◎本科　二年　◎裁縫專修科　二年編入

文部大臣認可　藤田女學校

◎願書受附　三月末日限り
◎詳細ハ　本校宛問合セノコト
◎位置　福島縣平町田町　電三二八番

磐城劇壇

盛岡に於ける磐中卒業生の集り

盛岡及びその附近に在住してゐる磐中の卒業生は學生を加へて現在十七名ばかり居る。

我等の元老格で岩手師範在職してゐられた草野五郎先生が昨春當地を去つて一抹の寂寥をおぼえしめるものがあるが、昨年末小川淸茂（十三）盛岡中學校高木稻水（十三）縣廳農務課猪狩仁（十六）縣廳農務課猪狩仁さんが當地の簡易保險健康（十六）河北新報記者北つながる會員は職業や卒業相談所に來任されたので、三（十九）水澤商業學の回數の如きは問題ではなの前にきて、岡沼さんが別二月十七日（土曜）午後五時鄕喜勝（二三）簡易保いから中の橋詰の秀淸閣で、校柴崎公平（二五）鄕里へ歸つたやうな氣今年岩手醫專を卒業される險健康相談所小川淸茂（二持で話し合つてゐるのだ、箱崎精史、舟田義孝兩君の五）の他岩手醫專の矢島章お互に顏を見合つて何かし送別會をかねて、第四回目（二一）箱崎精史（二九）佐ら話してゐればそれで愉快

藤幾要司（三〇）新田目五郎（三三）の十三名、伊藤さんと猪狩さんが幹事として萬事を斡旋された。配膳の後は盃の獻酬が頻りであつて、一わたり母校の舊師の簡單に別れられよう。

岡沼檢事の死刑執行の凄慘お話に耳を傾けてゐると、女中が消えかけた火鉢にどつさり火を持つて來た、時計を見ると正に十時半だ、名殘はつきないが、やつと皆で外に出た、そして學生

磐城劇壇